

わが心のボルチモア (1990)

AVALON

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 アメリカ

色彩 Color

時間 127分

初公開日 1991/01/11

公開情報 Tri=COLTRI

【キャッチコピー】

1914年、私はアメリカに渡った。そこは見たことのないような美しい街だった。熱き想い=アメリカン・ドリーム=

【解説】

ボルチモアの生んだヒットメイカーと言えばジョン・ウォーターズ、ではなくて、B・レヴィンソン（しかし、よくその故郷を舞台にする点ではこの二人、似ても似つかぬようで相通ずるものがある）。その彼が、麗しきボルチモア讃歌を奏でてみせる自伝的な作品だ。東欧からの移民一家に生まれた少年（E・ウッド）は大家族主義に育まれながら健やかに育つ。彼の父（A・クイン）は少年の叔父（つまり従兄）と電器店経営に乗り出し成功するが、少年と従兄（叔父の息子）の悪戯から店は大火に包まれる。にもめげず、父たちは店を復興させたが、その頃から新旧の世代間の争いが激しくなり、一家はバラバラになる。少年の回想として描かれる物語は、極めてアメリカ的な要素をちりばめながら、どこかヨーロッパ的な匂いのする家族史。背景となるのは50年代末から60年代初頭、アメリカの最も豊かだった時代で、ノスタルジックなムードもふんだんだが、映画としての切れ味がそのために鈍ることもない（例えば、火事を家に伝えに行くシーケンスの迫力など大したものだ）のは、さすが「ダイナー」の作者だけある。

【クレジット】

監督	バリー・レヴィンソン	Barry Levinson
製作	マーク・ジョンソン	Mark Johnson
	バリー・レヴィンソン	Barry Levinson
脚本	バリー・レヴィンソン	Barry Levinson
撮影	アレン・ダヴィオー	Allen Daviau
音楽	ランディ・ニューマン	Randy Newman
出演	アーミン・ミュラー＝スタール	Armin Mueller-Stahl
	ジョーン・プロウライト	Joan Plowright
	エイダン・クイン	Aidan Quinn
	レオ・ヒュークス	
	エリザベス・パーキンス	Elizabeth Perkins
	ルー・ジャコビ	Lou Jacobi
	イヴ・ゴードン	Eve Gordon
	ケヴィン・ポラック	Kevin Pollak
	イライジャ・ウッド	Elijah Wood
	トム・ウッド	Tom Wood